

3D下描き機能を使った背景作画 ～その4 トレースしよう～

3Dデータを配置し終わったら、そのままでは背景にならないので、今度はその上をトレースしていきます。使うのは「ベクターレイヤー」と「直線ツール」。パース定規を3Dにあわせて……という方法もあるかと思いますが、こういう直線的な背景をトレースする場合は、「直線ツール」を使って線をどんどん引いていく方が楽なので、ここでは「直線ツール」を使います。

トレースしよう！

レイヤーパレットの「新規レイヤー作成」をクリックし、トレース用のベクターレイヤーを新しく作ります。

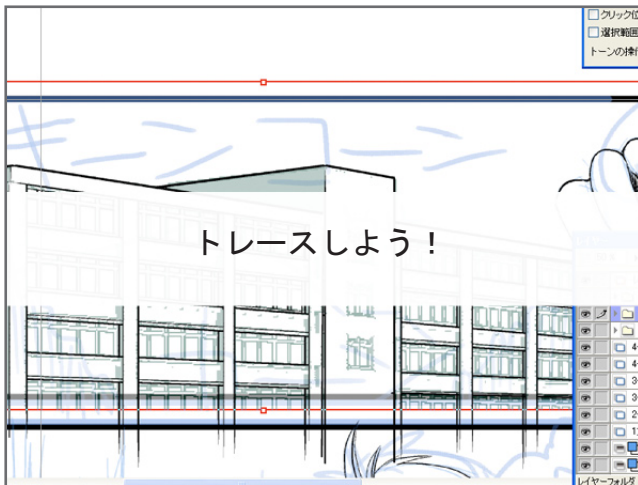
次に直線ツールを選んで、トレース開始です。線の太さは作品にもよりますが、ここでは、

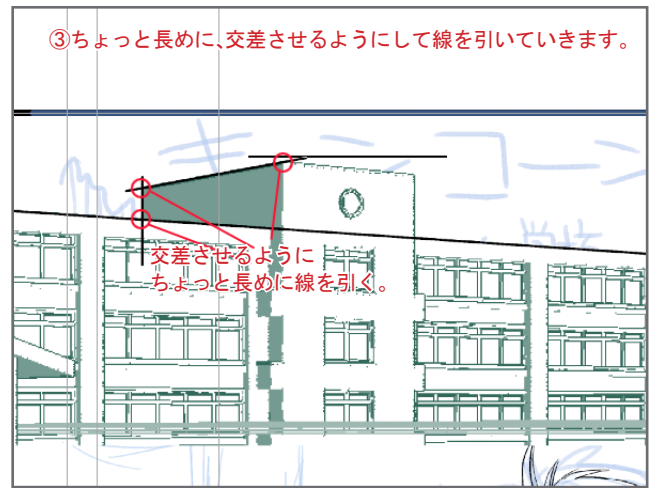
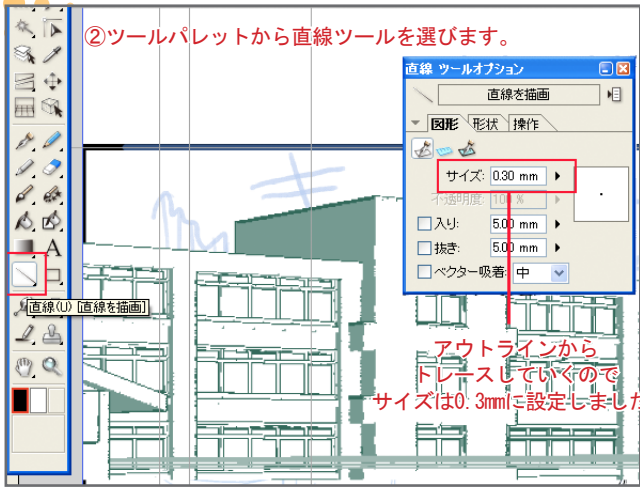
- アウトライン（一番外側の太い線） …… 0.3mm
- 影の部分の線（二番目に太い線） …… 0.2mm
- ハイライト部分（一番細い線） …… 0.1mm

以上の設定でトレースしていきます。

ラインの太さを決めたら、さっき作ったベクターレイヤー上にトレースしていきます。

ベクターレイヤーに引いた線は、後から簡単に線の太さを変えることができるので、あまり考えずに線を引いていってOKです。ポイントは、3Dデータにそって、**きっかり線を引くのではなく、引きたいラインよりちょっと長めに線を引くこと**です。
ちょっと長めに、できるだけ交差するように線を引いていきます。





なぜ、交差するように線を引くのか？

まず一つめの理由は、正確に線を引くのが面倒くさいから(笑)。

長さを気にしながら線を引くより、長さを気にせず適当に線を引いた方が速い！

そして、もう一つの理由はこのはみ出したところが、ベクターレイヤーだと簡単に消せるからです。

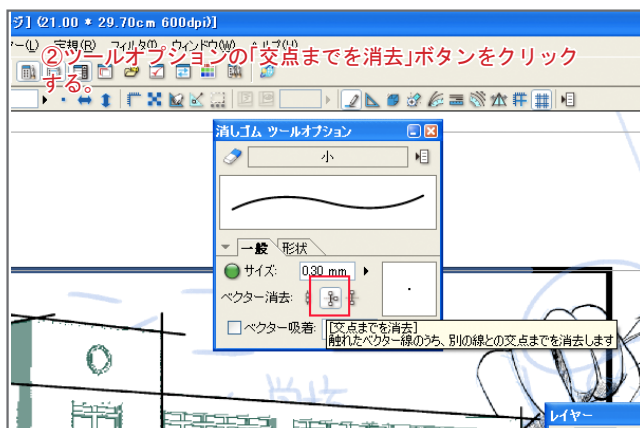
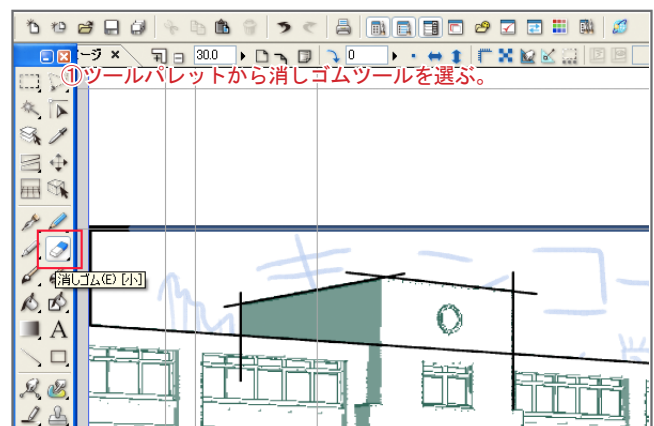
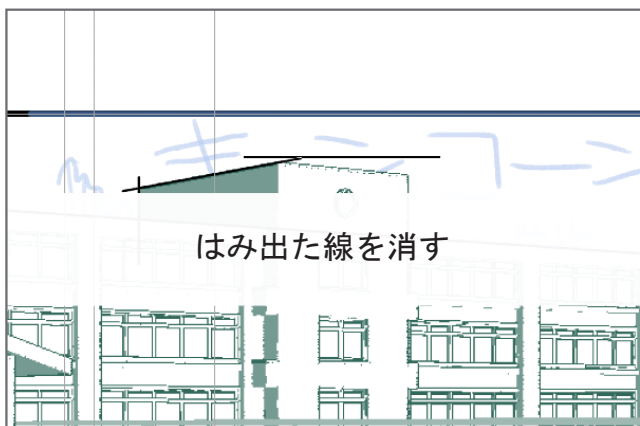
ベクターレイヤー最強伝説

ペン入れの時は、特に活躍してなかったベクターレイヤー（少なくともこの連載では）……

それが、この背景トレースで、ようやくその真価を発揮します。

それが、ベクターレイヤーだけで使える秘密兵器。消しゴムの「交点までを消去」です。

消しゴムツールを選択して、ベクター消去の「交点までを消去」のボタンを押します。そして、はみ出した所をちょっとふれるだけでOK。線が交わるところまで、キレイにさわった線を消してくれます。



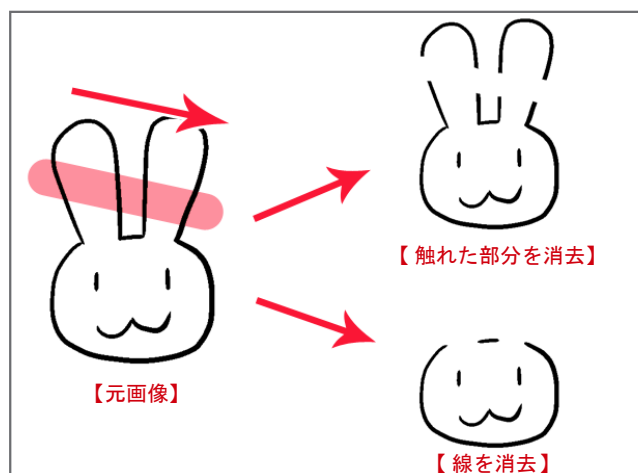
④自動的に交点まで線が消えます。



コレが本当に便利！これで消していく場合は、線が交差していた方が消しやすいので、ざくざく線を引いて、ある程度線が引けたら、これで消していく……という感じで作業すると速いです。

あんまり線を引きすぎると、消すときに線が重なりすぎて面倒なことになるので、ある程度線が引いたら、その都度消していくといいと思います。

もし、普通にさわった部分だけ線を消したいときは、「触れた部分を消去」のボタンをチェックします。
線をまるごと全部消したい時は「線を消去」のボタンを押しておけばOKです。



長くなってしまったので、今回はこの辺で。次回はトレースで使える技を紹介したいと思います。